

スタッフ紹介

※氏名、現職、専門分野、担当研究事業、および2022年度の研究業績について紹介します。今年度新任のスタッフに関しては、研究紹介および2021年度以前の研究についても掲載します。また、掲載順は現職・五十音順に従うものとします。なお、発表・講演等をオンライン形式にて行った場合は、そのWeb会議サービスの媒体を問わず「オンライン開催」と表記しています。

平藤喜久子 所長・教授 神話学・宗教学

[単行本]

- ・『神話の歩き方』集英社、2022年7月。

[論文]

- ・「比較神話学から読む『遠野物語』」『現代思想』50巻8号、2022年6月、146-154頁。

[口頭発表]

- ・(講演)「神話で学ぶ神道文化」横浜市神社総代会連合会、於ロイヤルホールヨコハマ、2022年6月23日。
- ・(講演)「日向神話の歩き方」宮崎県民大学、於JA・AZMホール本館大研修室、2022年9月3日。
- ・(講演)「神話でたどる旅」敬神婦人大会、於明治記念館、2022年9月26日。
- ・(講演)「出雲と日向、日本神話のふる里を訪ねる」監査懇話会、於日比谷図書文化館B1コンベンショナル大ホール、2022年10月6日。
- ・“La réutilisation des supports votifs traditionnels dans la culture geek : images de cheval et fans d'animation“, Colloque Ex-voto : créations, subversion et transgression, Casa de Velázquez, en ligne, 2022.10.21.
- ・(講演)「神話と旅」山形県神社総代会役員会、山形国際交流プラザ、ビッグウイング二階大会議室。
- ・(講演)“The Representation of Shinto Gods: A Visual History”, in Japanese Religions Lectures, UC Santa Barbara, 2023.2.13.

[その他]

- ・(コラム)「海外の神道研究」伊藤聡・斎藤英喜編『アジア遊学281 神道の近代』勉誠社、2023年3月。
- ・(監修)『世界のドラゴン伝説』(学研まんが神話・伝説シリーズ)、学研、2022年8月。
- ・(監修)『12星座の物語～ギリシャ神話～』(学研まんが神話・伝説シリーズ)、学研、2022年8月。
- ・(監修)「知っておきたい古事記の神様」『家庭画報』2023年1月号。

星野靖二 教授 近代日本宗教史

[論文]

- ・「明治初期における世界の「諸宗教」像——黒田行元による著作の検討」『神道宗教』第267・268号、2022年10月、3-26頁。

[口頭発表]

- ・「宗教学成立以前の「世界の諸宗教」像についての一考察」日本宗教学会第81回学術大会、於オンライン、2022年9月10日。

[その他]

- ・(書評)「村松晋『近代日本のキリスト者』」『宗教研究』403(96-1)、2022年6月、246-252頁。
- ・(編集委員)キリスト教文化事典編集委員会編『キリスト教文化事典』丸善出版、2022年8月。

飯倉義之 教授 口承文学、民俗学

[論文]

- ・「桃太郎・鬼・ニセ科学——「ボクのおとうさんは、桃太郎というやつに殺されました。」から「鬼との対話」を導く授業に関しての、一抹の不安——」『子どもの文化』55巻1号、2022年12月、10-17頁。
- ・「[口から耳へ]の文芸の世界～民話と文学の関係について～」『温故叢誌』76号、2022年11月、32-41頁。

[口頭発表]

- ・(発表)「話しという「ことばの実践」の発見から〈口承〉研究へ」國學院大學伝承文化学会秋季オンラインフォーラム「語り／話し研究の〈これまで〉と〈これから〉」、オンライン開催、2022年12月10日。
- ・(発表)「変化する現在・拡張する現実と向き合う日本の民俗研究」日本民俗学会・中国民俗学会 日中民俗学学术交流ワークショップ、オンライン開催、2022年7月17日。
- ・(講演)「解説 妖怪たちの出生のヒミツ」調布市東部公民館市民講演会、於調布市東部公民館、2022年11月23日。
- ・(講演)「妖怪の歴史をたどる～古代から現代まで～」狭山市立博物館企画展関連特別講座、於狭山市立博物館、2022年11月23日。

[その他]

- ・(監修)『はじめてのオニずかん』いとうみちろう(イラスト)、スタジオタッククリエイティブ、2022年9月。
- ・(テレビ出演)「ダークサイドミステリー：心霊と恐怖の仕掛人 中岡俊哉～昭和オカルトブームの舞台裏～」NHK BSプレミアム、2022年5月19日。

遠藤潤 教授 宗教学、日本宗教史(近世・近代)

黒崎浩行 教授 宗教社会学、現代社会と地域神社

[論文]

- ・재난지역의 축제와 기원을 지원하는 학생 자원봉사자와 종교학자. 다카쿠라 히로키(高倉浩樹), 야마구치 무쓰미(山口睦)(eds.), 왜 현장재난인문학인가 - 재난 이후 지역문화와 피해자의 민속지. 김경인, 임미선(trans.), 도서출판 역락, 2023년 2월, 288-309. (「被災地の祭り・祈りを支援する学生ボランティアと宗教学者」(高倉浩樹・山口睦編『震災後の地域文化と被災者の民俗誌: フィールド災害人文学の構築』新泉社、2018年1月、197-211頁)の韓国語訳)

[その他]

- ・(分担執筆)「第9章 神社を取り巻く多様な問題」國學院大學神道文化学部編『プレステップ神道学〈第2版〉』弘文堂、2023年2月、108-117頁。

松本久史 教授 近世・近代の国学・神道史

エリック・シッケタンツ (SCHICKETANZ, Erik)

准教授 近代日本の宗教、近代中国の宗教、宗教と政治

吉永博彰 助教 中世・近世の神道史、神社有職故実

[論文]

- ・「中世伊豆国三嶋社にみた神仏関係—僧侶の活動と神宮寺の展開を手掛かりに—」『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報』第15号、2022年9月、74-91頁。
- ・「伊豆三嶋信仰の様相—現状の把握とその成立背景—」『國學院大學博物館研究報告』第39輯、2023年2月、67-86頁。

川嶋麗華 助教 民俗学

【口頭発表】

- ・「近現代における火葬習俗の変遷—遺体処理にみる伝承性—」2022年度第2回日本文化研究所研究会、オンライン開催、2022年6月30日。
- ・「物語られる死の処理：火葬習俗を中心として」大学院特定課題研究「森敦文学の可能性の探究」研究成果報告会、於國學院大學、2022年12月17日。

大場あや PD 研究員 宗教社会学

【論文】

- ・「冠婚葬祭における衣装・用具・施設を「共有」するということ—石川県旧能美郡の事例—」『一般財団法人冠婚葬祭文化振興財団 冠婚葬祭総合研究所論文集』令和3年度、2022年5月、29-42頁。
- ・「人口移動と葬儀互助システムの形成—山形県最上町の契約講を事例に—」山田慎也・土居浩編『無縁社会の葬儀と墓：死者との過去・現在・未来』吉川弘文館、2022年8月、59-83頁。

【口頭発表】

- ・「冠婚葬祭の「共同化」と婦人会—石川県旧能美郡の事例を中心に—」「宗教と社会」学会第30回学術大会、於駒澤大学（オンライン開催）、2022年6月4日。
- ・“Co-Buying and Sharing: Practical Aspects of the New Life Movement in Japan,” The 4th Annual Meeting of the EASSSR, National Taiwan University (Online), 2022.8.13.
- ・「戦後日本における「葬制変容論」の再検討—類型化の試み—」日本宗教学会第81回学術大会、於愛知学院大学（オンライン開催）、2022年9月10日。
- ・「契約講研究の可能性—葬制研究における組織論的アプローチとして—」講研究会第121回例会、於立教大学池袋キャンパス、2022年11月26日。
- ・「葬儀・墓をめぐる国家政策と改革運動の展開—日中比較研究に向けて—」2022年度第6回日本文化研究所研究会、オンライン開催、2022年11月30日。
- ・（講演）「戦後日本における葬儀の変容—行政と地域住民の相互作用に着目して—」埼玉天台仏教青年会研修会、於天台宗埼玉教区宗務所、2023年2月13日。
- ・「住宅改善論における儀礼と祭祀」「家内における死者祭祀・祭具の現在とその歴史的検討：変容するモノ・家族・社会」2022年度第4回研究会、於国立歴史民俗博物館、2023年2月19日。
- ・「新生活運動と冠婚葬祭—葬儀を「改善」するとは—」日本葬送文化学会2月定例会、オンライン開催、2023年2月22日。
- ・「間芝志保著『先祖祭祀と墓制の近代—創られた国民的習俗—』合評会：第1報告」大正大学宗教学会2022年度秋期大会、於大正大学、2023年2月23日。

【その他】

- ・（書評）ミハエル・シュタウディグル、マイケル・バーバー、ルーツ・アヤス、マー・グリエラ、ケイジ・ホシカワ、イリヤ・スルバル著／星川啓慈訳「シュッツと宗教現象学—宗教と日常生活世界とのかかわりの探究—」『宗教学年報』36輯、2023年3月、43-53頁。

木村悠之介 PD 研究員 近代日本宗教史・神道史

【単行本】

- ・（分担執筆）「第10講 宗教」山口輝臣・福家崇洋編『思想史講義【明治篇Ⅱ】』ちくま新書、2023年2月、187-204頁。
- ・（分担執筆）「再生する平田篤胤—一世紀転換期の「神道史」叙述における「事実」と「想像」をめぐる—」山下久夫・斎藤英喜編『平田篤胤 狂信から共振へ』法藏館、2023年2月、286-313頁。

【論文】

- ・(共著) 木村悠之介、萩原稔「大成教禊教『禊教新誌』『禊教会雑誌』『みそ、き』 解題・目次」『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報』第15号、2022年9月、33-56頁。
- ・「明治後期における「復古神道」イメージの変化—吉見幸和から荷田春満へ—」公益信託松尾金藏記念奨学基金編『明日へ翔ぶ—人文社会学の新視点—』第6巻、風間書房、2023年3月、51-75頁。
- ・「神道学を建設する——井上哲次郎門下・遠藤隆吉と「生々主義」の近代」伊藤聡・斎藤英喜編『神道の近代 アクチュアリティを問う』勉誠出版、2023年3月、227-241頁。
- ・「新神道とは何であったか—メディア排宗教運動としての雑誌『日本主義』—」『國學院大學研究開発推進機構紀要』第15号、2023年3月、31-71頁。
- ・「出版に託された“一つの神道”という夢——会通社の社史が映す近代神道」『近代出版研究』第2号、2023年3月、241-259頁。

[口頭発表]

- ・「近代神道雑誌史・出版史の新たな展望」2022年度第4回日本文化研究所研究会、オンライン開催、2022年8月25日。
- ・「日露戦争以後の久米邦武における神道・宗教観」日本宗教学会第81回学術大会、於愛知学院大学（オンライン開催）、2022年9月11日。
- ・「近代横浜の社寺参詣——二つの「鎮守」を中心に」神道宗教学会第76回学術大会、オンライン開催、2022年12月4日。
- ・「近代神道」の再定義におけるジェンダー視点」国際卓越大学院人文社会系研究科次世代育成プログラム 異分野共同演習ワークショップ、オンライン開催、2023年3月5日。

[その他]

- ・(史料紹介)「大日本協会『日本主義』『新天地』の基礎的事項と総目次」『人文×社会』第8号、2022年12月、257-378頁。
- ・(書評報告)「第3章「古代史から人類哲学へ——独自路線の模索」を中心に」歴史論研究会 菅原潤『梅原猛と仏教の思想』合評会、於東京大学、2023年3月21日。

高田彩 PD研究員 宗教社会学

[論文]

- ・「講」を迎える人びと」長谷部八郎監修・講研究会編集委員会編集『人のつながりの歴史・民俗・宗教—「講」の文化論—』八千代出版、2022年4月、170-185頁。

[口頭発表]

- ・「宗教集団の生存戦略としての観光化—武州御嶽山を事例に—」宗教と社会」学会第30回学術大会、於駒澤大学（オンライン開催）、2022年6月4日。
- ・「昭和戦後期の武州御嶽山—生存戦略としての観光化—」日本山岳修験学会第42回飯田学術大会、於飯田市鼎文化センター、2022年10月22日。

武井謙悟 PD研究員 宗教人類学、近代仏教

[口頭発表]

- ・「近代仏教の「儀礼」をいかに再現するか」第30回日本近代仏教史研究会研究大会、オンライン開催、2022年6月11日。
- ・「近代における仏前結婚式」の再検討—浄土系の事例を中心として—」武蔵野大学仏教文化研究所2022年度第2回研究例会、オンライン開催、2022年10月7日。
- ・「開帳の近代—近世との連続／断絶」2022年度第5回日本文化研究所研究会、オンライン開催、2022年10月27日。

[その他]

- ・(書評)「碧海寿広『科学化する仏教——瞑想と心身の近現代』」『近代仏教』29号、207-211頁、2022年5月。
- ・(発表要旨)「近代日本における合掌観の変遷」『宗教研究』96巻別冊、255-256頁、2023年3月(日本宗教学会第81回学術大会、オンライン開催、2022年9月11日)。

藤井修平 PD研究員 宗教学理論研究

[単行本]

- ・『科学で宗教が解明できるか：進化生物学・認知科学に基づく宗教理論の誕生』勁草書房、2023年1月。

[論文]

- ・(共著)高橋綾子、藤井修平「新型コロナウイルス禍のアマビエにみる妖怪の社会的機能」『心理学研究』93巻1号、2022年4月、58-64頁。
- ・「宗教認知科学における哲学的議論の考察」『宗教哲学研究』40号、2023年3月、29-43頁。

[口頭発表]

- ・(講演)「宗教的現象の心理学—人はなぜ不思議なものを信じ、行動するのか—」中部大学人文学部心理学科 心理学コロキウム、於中部大学、2022年6月10日。
- ・(公募シンポジウム)「掘り起こされていない研究分野を開拓する方法(現在進行中)」日本心理学会第86回学術大会、於日本大学(オンライン開催)、2022年9月8日。
- ・「ビッグ・ゴッド仮説の構造と展開」日本宗教学会第81回学術大会、於愛知学院大学(オンライン開催)、2022年9月10日。

[その他]

- ・「米国における中絶の権利撤回判決とキリスト教」『ラク便り』95号、2022年8月、45-48頁。
- ・(共訳)アラ・ノレンザヤン著、藤井修平、松島公望、荒川歩監訳『ビッグ・ゴッド：変容する宗教と協力・対立の心理学』誠信書房、2022年4月、担当範囲：第1章、第2章、第9章。
- ・(共訳)ジャスティン・パレット著、松島公望監訳、矢吹理恵、荒川歩編訳『なぜ子どもは神を信じるのか?：人間の宗教性の心理学的研究』教文館、2023年1月、担当範囲：第6章、第9章。
- ・(共訳)R.R. マレット、J.G. フレイザー、W. ロバートソン・スミス、R.H. コドリントン著、江川純一、山崎亮監修『マナ・タブー・供犠：英国初期人類学宗教論集』国書刊行会、2023年3月、担当範囲：『宗教への関』序文、序論、第1章、第4章、第5章、解題。

長見菜子 研究補助員 上代文学

[口頭発表]

- ・「『古事記』『軽太子物語』の諸問題—文章表現からみる寓意性—」2022年度第1回日本文化研究所研究会、オンライン開催、2022年6月6日。
- ・「『古事記』『軽太子物語』の背景—伝承氏族と銅鏃の関係性について—」令和4年度古事記学会・風土記研究会合同大会、オンライン開催、2022年6月19日。

鳴海あかり 研究補助員 民俗学

[論文]

- ・「近現代における丑の刻参り——藁人形と釘をめぐる——」『世間話研究』29号、2023年3月、54-68頁。

[口頭発表]

- ・「いわゆる「丑の刻参り」はどこからきたのか?」異類の会、オンライン開催、2022年11月20日。
- ・「『丑の刻参りは見られたら効かない』は昔からの決まり?」異類の会、オンライン開催、2022年12月18日。
- ・「いわゆる「丑の刻参り」はどこからきたのか?」世間話研究会、オンライン開催、2023年2月12日。

- ・「丑の刻参りの形成・発展・変化」2022年度第8回日本文化研究所研究会、オンライン開催、2023年3月27日。

牧田小有玲 研究補助員 宗教人類学

【研究紹介】

宗教人類学を専門としており、現代の神社神道社会におけるジェンダー規範が女性神職の主体を通じていかに再構築され続けているのかを明らかにしようとしている。これまでは、機関誌や新聞の言説分析から、神社神道社会内部において女性神職の置かれた社会的状況やジェンダー的な規範・言説のあり方に着目してきた。現在は、国内の複数神社での長期フィールドワークを実施しながら、日々の社頭や祭りなどの場面で、規範に向き合い交渉する女性神職の実践を検討し事例分析と民族誌的記述を試みている。ジェンダーからテーマを広げて、宗教的規範と性的マイノリティや家族主義との関係にも関心を持っている。

【論文】

- ・「神社神道で構築されるジェンダー規範についての一考察 ―女性神職に関する言説分析から」『宗教学論集』第42輯、2023年1月、31-61頁。

【口頭発表】

- ・「現代神社神道を生きる女性神職の姿：実践と語りに着目して」日本文化人類学会関東地区研究懇談会修士論文博士論文発表会、オンライン開催、2020年3月27日。
- ・（共同発表）鈴木弥香子・牧田小有玲・益田喜和子・宮下大輝・横山紗亜耶「本質化された差異をめぐる理論と実践——エンパワメントと排除」カルチュラル・タイフーン2022、於成城大学、2022年9月18日。

【その他】

- ・（書評）「春日直樹・竹沢尚一郎編『文化人類学のエッセンス：世界をみる/変える』」『人間と社会の探究 慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要』91号、2021年10月、67-71頁。
- ・（YouTube出演）「ウクライナ出身の女性神職、SNSに平和メッセージ～女性神職と巫女との違い～「宗教ニュースを読み解く」No.7」2022年3月18日。
- ・（書評）「鈴木正崇著『女人禁制の人類学：相撲・穢れ・ジェンダー』」『三田社会学』27号、2022年7月、88-90頁。
- ・「神社本庁の総長人事問題」『ラク便り』97号、2023年2月、31-34頁。

井上順孝 客員教授 宗教社会学、認知宗教学

【論文】

- ・「宗教社会学・宗教心理学から認知宗教学への接続」『ラク便り―日本と世界の宗教ニュースを読み解く』第95号、2022年9月30日、49-71頁。
- ・「カリスマは『神の賜物』か？」高野山大学編『宗教と科学の対話 宇宙の摂理への想い その4』企業開発センターKKCネクスト出版、58-79頁。

【口頭発表】

- ・「宗教社会学・宗教心理学から認知宗教学への接続」日本宗教学会第81回学術大会、於愛知学院大学（オンライン開催）、2022年9月10日。
- ・（コメント）シンポジウム「宗教とジェンダーの最前線」国際日本文化研究センター、オンライン開催、2022年12月24日。

【その他】

- ・（寄稿）「松本サリン事件28年 現代に問うものは（下）避ける判断力養う教育を」『信濃毎日新聞』2022年6月27日。
- ・（講演）「宗教社会学」警察大学校、2022年5月18日、8月4日、11月10日、2023年1月25日、2月14日。

- ・(講演)「宗教と人権に関する最近の報道傾向—なくならないヘイト言動を見据えて—」曹洞宗宗務庁、2022年6月28日。
- ・(講演)「現代世界の宗教文化について—日本人には理解しづらい宗教文化の常識を学ぶ—」東京理科大学オープンカレッジ講座、2022年7月22日。
- ・(講演)「宗教学者から見たオウム真理教(アレフ・ひかりの輪)」公安調査委員会、2022年10月24日。
- ・(講演)「宗教と教育—グローバル化と情報化の時代—」共和リサーチセンター、2023年3月10日。
- ・(YouTube出演)「東南アジアのおでん人気に着目しハラール認証取得—ハラールとハラームの基礎知識—『宗教ニュースを読み解く』No.9」2022年4月4日。
- ・(YouTube出演)「戒律を守り北京パラリンピックの競技に欠場したイスラエル選手—ユダヤ教超正統派と安息日—『宗教ニュースを読み解く』No.10」2022年4月11日。
- ・(YouTube出演)「ロシアのウクライナ侵攻を憂慮するキリスト教指導者たち—オーソドクスと国家のつながり—『宗教ニュースを読み解く』No.11」2022年4月28日。
- ・(YouTube出演)「葬儀での僧侶への不満の多さを示す調査結果—弱まった檀家意識—『宗教ニュースを読み解く』No.12」2022年6月1日。
- ・(YouTube出演)「ネット布教の制限強化と「宗教の中国化」—現代中国における宗教状況—『宗教ニュースを読み解く』No.13」2022年6月10日。
- ・(YouTube出演)「日本聖公会で初めての女性主教—英国国教会と日本聖公会—『宗教ニュースを読み解く』No.14」2022年6月22日。
- ・(YouTube出演)「神仏〈酒合〉でコロナ退散—神仏習合の現在—『宗教ニュースを読み解く』No.15」2022年7月15日。
- ・(YouTube出演)「全国霊感商法対策弁護士連絡会が〈統一教会〉の高額献金問題で記者会見—カルト問題とは—『宗教ニュースを読み解く』No.16」2022年7月26日。
- ・(YouTube出演)「消費者庁「霊感商法等の悪質商法への対策検討会」を開催—「反セクト法」と信教の自由—『宗教ニュースを読み解く』No.17」2022年9月22日。
- ・(YouTube出演)「動画や講義でカルト団体の予防啓発に取り組む大阪大学—宗教リテラシーと宗教文化教育—『宗教ニュースを読み解く』No.18」2022年10月4日。
- ・(YouTube出演) RIRCチャンネル番外編「現代宗教との向かい合いからRIRCへ—井上順孝センター長に聞く—(第1回 宗教家の多かった東京大学宗教学研究室)」2022年10月24日。
- ・(YouTube出演) RIRCチャンネル番外編「現代宗教との向かい合いからRIRCへ—井上順孝センター長に聞く—(第2回 宗教社会学研究会から「宗教と社会」学会へ)」2022年11月17日。
- ・(YouTube出演) RIRCチャンネル番外編「現代宗教との向かい合いからRIRCへ—井上順孝センター長に聞く—(第3回 ハワイとカリフォルニアでの日系人宗教調査)」2022年12月21日。
- ・(YouTube出演) RIRCチャンネル番外編「現代宗教との向かい合いからRIRCへ—井上順孝センター長に聞く—(第4回『新宗教事典』と『神道事典』の編集)」2023年1月11日。
- ・(YouTube出演) RIRCチャンネル番外編「現代宗教との向かい合いからRIRCへ—井上順孝センター長に聞く—(第5回 宗教教育から宗教文化教育へ)」2023年1月20日。
- ・(YouTube出演) RIRCチャンネル番外編「現代宗教との向かい合いからRIRCへ—井上順孝センター長に聞く—(第6回 国際宗教研究所と宗教情報リサーチセンター)」2023年2月1日。
- ・(YouTube出演)「日本人僧侶が韓国で樹木葬の書籍刊行—世界に広がる樹木葬—『宗教ニュースを読み解く』No.19」2023年3月22日。
- ・(ブログ)「宗教文化の網の目(21)「『脳』のモザイク」説は宗教界のジェンダー論議にどう波及する?」「弘文堂スクエア」2022年4月13日。
- ・(ブログ)「宗教文化の網の目(22)「宗教文化の知識で『予測する心』の弱点を補うには」「弘文堂スクエア」2022年5月11日。

- ・(ブログ)「宗教文化の網の目 (23)「進化する情報ツールで宗教の激しい変容を追いかける」「弘文堂スクエア」2022年6月8日。
- ・(ブログ)「宗教文化の網の目 (24) 最終回「常に変わる環境へのサーチライトがつながりを照らす」「弘文堂スクエア」2022年7月13日。
- ・(ウェブ会議議長)「カルト問題。身近に感じますか?」「イー・ウーマン 働く人の円卓会議」、2022年9月2日～9日。

櫻井義秀 客員教授 比較宗教社会学

[単行本]

- ・『東アジア宗教のかたち—比較宗教社会学への招待—』法蔵館、2022年6月。
- ・『統一教会—一性・カネ・恨(ハン)から実像に迫る—』中央公論新社、2023年3月。

[口頭発表]

- ・“The second suppression of Ōmoto-kyō and its members' belief and experience in 1935-45,” 4th Annual Meeting of East Asian Society for the Scientific Study of Religion, Online Meeting (National Taiwan University), 2022.8.13.

[その他]

- ・「時事評論 ネイションへの埋め込み 時代逆行の「大きな物語」」『中外日報』2022年5月13日付。
- ・「時事評論 生活を破壊し国益損なう宗教 なぜ保守政治家がシンパに」『中外日報』2022年8月26日付。
- ・「時事評論 旧統一教会問題 宗教研究者有志声明の意図」『中外日報』2022年11月30日付。
- ・「時事評論 AIが答えたカルト問題の解決 教育や宗教的教化には不向き」『中外日報』2023年3月29日付。
- ・「現代日本の宗教最前線106 「お経の意味を知りたい世代が増えている」『月刊住職』2022年24巻4号、140-143頁。
- ・「現代日本の宗教最前線107 「突然の新冷戦下に仏教は何ができる」『月刊住職』2022年24巻5号、146-149頁。
- ・「現代日本の宗教最前線108 「信ずるものに命を賭すことの何が問題か」『月刊住職』2022年24巻6月号、148-151頁。
- ・「現代日本の宗教最前線109 「持続する幸福感を若い人に持って欲しい」『月刊住職』2022年24巻7号、148-151頁。
- ・「現代日本の宗教最前線110 「地球環境に配慮できる人間になるために」『月刊住職』2022年24巻8号、140-143頁。
- ・「緊急特別編 現代日本の宗教最前線1」「安倍元首相への縦断の真の標的とされた統一教会と政界の何が問題か」『月刊住職』2022年24巻9号、32-39頁。
- ・「緊急特別編 現代日本の宗教最前線2」「多くの被害者をもたらす統一教会に日本の政治家が取り入れた真相」『月刊住職』2022年24巻10号、30-37頁、39頁。
- ・「緊急特別編 現代日本の宗教最前線3」「解散請求を問うべき状況だったのになぜ所轄は何もしなかったのか」『月刊住職』2022年24巻11号、44-51頁。
- ・「緊急特別編 現代日本の宗教最前線4」「霊感商法を可能にした先祖が崇るとい言説になぜ日本人ははまる」『月刊住職』2022年24巻12号、48-55頁。
- ・「緊急特別編 現代日本の宗教最前線5」「なぜ女性たちが辛い布教活動や資金調達の前線に立たされたのか」『月刊住職』2023年25巻2号、44-51頁。
- ・「緊急特別編 現代日本の宗教最前線6」「人の信仰心に付け込んだ収奪を妨げるのは法律だけでなく人である」『月刊住職』2023年25巻3号、114-121頁。
- ・“The Unification Church splinters Japan,” East Asia Forum Economics: Politics and Public Policy in

East Asia and the Pacific, 2022.10.20. (<https://www.eastasiaforum.org/2022/10/20/the-unification-church-splinters-japan/>)

ナカイ・ケイト (NAKAI, Kate W) 客員教授 日本思想史

林 淳 客員教授 日本宗教史

ノルマン・ヘイヴンズ (HAVENS, Norman) 客員教授 日本宗教史、日本の民間信仰

山中 弘 客員教授 宗教社会学

天田 顕徳 共同研究員 宗教社会学・民俗学

一戸 渉 共同研究員 日本近世文学・学芸史

[論文]

- ・「圓珠庵寄託契沖著述稿本類等目録」『斯道文庫論集』57輯、2023年2月、477-500頁。
- ・「契沖自筆『厚顔抄』『古今余材抄』新出断簡について—附『〔住友周富十七回忌追悼歌集〕』翻印—」『斯道文庫論集』57輯、2023年2月、281-296頁。

[口頭発表]

- ・(講演)「『聆涛閣集古帖』と近世好古家の世界」第443回歴博講演会、於国立歴史民俗博物館、2023年3月12日。

[その他]

- ・(総説)「『論語疏』の紙片と香果遺珍」『三色旗』844号、2022年10月、10-16頁。
- ・(コラム)「好古摺物と吉田家」他資料解説『いにしえが、好きっ！—近世好古図録の文化誌—』国立歴史民俗博物館、2023年3月、132-133頁。
- ・(総説)「近世日本の蒐集文化と書物—慶應義塾図書館蔵「香果遺珍」を中心に—」安形麻里編『書物と社会の記憶』慶應義塾大学文学部、2023年3月、31-36頁。

今井 功一 共同研究員 歴史民俗資料学、富士信仰研究、教派神道研究

[論文]

- ・「実行教の神道改革と海外布教——柴田礼一の朝鮮巡教と従軍布教使北條三野夫の台湾開教」『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報』第15号、2022年9月、57-73頁。
- ・「富士講系教派神道・実行教の富士登山」『山岳修験』第70号富士山大会特集、2023年2月、79-88頁。

[口頭発表]

- ・「柴田花守『教訓謡集』をめぐって」神道宗教学会第76回学術大会、於國學院大學（オンライン開催）、2022年12月4日。

今井 信治 共同研究員 宗教社会学

荻原 稔 共同研究員 教派神道

[論文]

- ・「井上正鐵の教えと“救い”」『シリーズ宗教と差別 第2巻 差別と宗教の日本史 救済の〈可能性〉を問う』法藏館、2022年9月、250-268頁。
- ・(共著) 木村悠之介、荻原稔「大成教禊教『禊教新誌』『禊教会雑誌』『みそ、き』 解題・目次」『國學院

大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報』第15号、2022年9月、33-56頁。

[口頭発表]

- ・「唯一問答書書継について」神道宗教学会第76回学術大会、オンライン開催、2022年12月4日。
- ・「井上正鐵の三宅島における活動とその影響」2022年度第7回日本文化研究所研究会、オンライン開催、2023年2月21日。

[その他]

- ・(書評)「石原和著『「ぞめき」の時空間と如来教—近世後期の救済論的転回』」『宗教と社会』第28号、2022年6月、45-48頁。
- ・(研修講師)「いろいろな子ども・家族そして教員について—Special Needsへの対応の基本から」羽村市立羽村第二中学校校内研修会、於羽村第二中学校、2022年8月31日。
- ・(研修講師)「非常事態を??!!な想定内で考える」東京都立羽村特別支援学校PTA防災講習会、於羽村特別支援学校、2022年10月4日。
- ・(コメント)「小さなニーズをつなげて地域のニーズに一障害者家族会の連絡会の動きから—」玉川大学社会教育士会五日会12月例会、オンライン開催、2022年12月5日。
- ・(発表要旨)「遠島前後の井上正鐵書簡」『神道宗教』第269号、2023年1月、105-106頁。

小田真裕 共同研究員 日本近世史

[口頭発表]

- ・「「房総の牧」研究の現在地」千葉歴史学会第40回大会、オンライン開催、2022年5月15日、(※岩本和恵・上條静香・土屋雅人・宮坂新の各氏と連名)。
- ・「大原幽学門人研究の視点—新出史料および平田国学・報徳仕法研究の現状を踏まえて—」歴史学研究会 日本近世史部会 2023年度大会支援報告会、オンライン開催、2023年3月21日。

[その他]

- ・(書評) 木場貴俊著『怪異をつくる—日本近世怪異文化史—』『歴史評論』第872号、2022年12月、74-78頁。
- ・(書評と紹介) 工藤航平著『近世蔵書文化論—地域〈知〉の形成と社会—』『古文書研究』第94号、2022年12月、134-136頁。

小平美香 共同研究員 日本思想史

[口頭発表]

- ・「女性神職の伝統—歴史・文化・展望」北陸地区女子神職研修会、於グランディア芳泉(福井県)、2022年5月26日。
- ・「明治期にみる神職の慈善・救済—『女子道』を中心に」近現代日本における「皇室と福祉事業に関する研究会、於皇學館大学(オンライン開催)、2022年8月9日。

[その他]

- ・(コラム)「近代神社の「巫女」をめぐる」伊藤聡・斎藤英喜編『神道の近代—アクチュアリティを問う』勉誠出版、2023年3月、69-73頁。

小高絢子 共同研究員 宗教社会学

[口頭発表]

- ・「現代における寺院参詣者の宗教意識—質問紙調査における若年層の結果をもとにして—」『宗教と社会』学会第30回学術大会、オンライン開催、2022年6月4日。
- ・「ホープツーリズムと宗教文化表象—福島県浜通りの震災伝承施設—」日本宗教学会第81回学術大会、於愛知学院大学(オンライン開催)、2022年9月11日。
- ・「参詣を軸とする寺院興隆の可能性—宗教ツーリズムの視点から—」日蓮宗現代宗教研究所研究例会、

オンライン開催、2023年1月31日。

- ・「現代の仏教寺院における信仰の諸相—堀之内妙法寺の参詣者の語りから」2022年度第9回日本文化研究所研究会、オンライン開催、2023年3月28日。

[その他]

- ・(YouTube出演)「神仏〈酒合〉でコロナ退散～神仏習合の現在～「宗教ニュースを読み解く」No.15」2022年7月15日。
- ・(発表要旨)「現代における寺院参詣者の宗教意識—質問紙調査における若年層の結果をもとにして—」『「宗教と社会」学会第30回学術大会」プログラム・要旨集』、12頁、2022年6月。
- ・(発表要旨)「ホープツーリズムと宗教文化表象」『宗教研究』96巻別冊、109-110頁、2023年3月。

ガイタニディス・ヤニス (GAITANIDIS, Ioannis)

共同研究員 日本学・宗教社会学・医療人類学

齋藤公太 共同研究員 日本思想史・宗教史

[単行本]

- ・(分担執筆)「平田国学とキリスト教」山下久夫・斎藤英喜編『平田篤胤 狂信から共振へ』法蔵館、2023年2月、260-285頁。

[論文]

- ・「『六代勝事記』と『神皇正統記』における承久の乱」『藝林』71巻1号、2022年4月、31-55頁。
- ・「『女帝』の言説史—神功皇后論と継嗣令第一条の解釈を中心に」『神戸大学文学部紀要』50号、2023年3月、119-143頁。

[口頭発表]

- ・「『国体』と『風景』—明治期日本の自己像と環境」政治思想学会第29回学術大会・シンポジウムⅡ「環境と自己像」、於明治大学駿河台キャンパス、2022年5月21日。
- ・“Rediscovery of *Jinnō Shōtōki* and Canon Formation in the Meiji Period” The Twnty-fourth Asian Studies Conference Japan、オンライン開催、2022年7月3日。
- ・「坂口安吾の日本文化論」日本思想史学会・2022年度大会、於同志社大学今出川校地新町キャンパス、2022年11月6日。
- ・「『女帝』の言説史—神功皇后論と継嗣令第一条の解釈を中心に」日本思想史研究会(京都)例会、オンライン開催、2023年2月24日。
- ・「近代天皇制と『神皇正統記』受容史」大阪歴史科学協議会3月例会、於関西学院大学梅田キャンパス、2023年3月11日。

[その他]

- ・(エッセイ)「移りゆく「日本人」のアイデンティティ」神戸大学人文学研究科編『人文学を解き放つ』神戸大学出版会、2023年3月、177-182頁。

芹口真結子 共同研究員 日本近世史

[単行本]

- ・(分担執筆)第1部第1章「おわりに—現実と「政策」のはざままで」、第1部「おわりに」有信真美菜・大江洋代・清水領・芹口真結子・高野友理香・寺本敬子・三枝暁子『アカデミズムとジェンダー—歴史学の現状と課題』績文堂出版、2022年5月、34-37頁、59-60頁。

[論文]

- ・「宗名論争と東本願寺—安永末～天明初年の動向を中心に」『佛教史學研究』64(1)、2022年12月、29-51頁。

[口頭発表]

- ・「宗名論争と東本願寺—浅草有志寺院・浅草御坊・本山の動向から—」名古屋歴史科学研究会 1月例会、オンライン開催、2022年1月30日。
- ・「地域社会における宗名論争の影響—京都の宅替手続きを素材に—」真宗史研究会、オンライン開催、2022年2月3日。
- ・「宗名論争と宗門改」2022年度日本宗教史懇話会サマーセミナー、同朋大学、2022年8月21日。
- ・「近世僧侶の法話の流通—講録という史料群—」仏教文学会、佛教大学、2022年12月3日。
- ・「宗名論争下における真宗教団—安永期を中心として—」2022（令和4）年度第1回基礎研究会、オンライン開催、2022年12月8日。
- ・「宗名論争における東西本願寺の連携と断絶—帰参・改派をめぐる—」中近世宗教史研究会、オンライン開催、2023年1月20日。
- ・「今後の近世宗教史研究」林淳教授退任記念シンポジウム「日本宗教研究の展望—林淳の宗教史学を問い直す—」愛知学院大学、2023年3月24日。

[その他]

- ・(コラム)「歴研と女性研究者(4)」『歴史学研究月報』746、2022年2月、2-4頁。
- ・(総説)「2021年の歴史学界—回顧と展望—(近世七 宗教)」『史学雑誌』131(5)、2022年5月、119-121頁。
- ・(コラム)「信心と経営—西本願寺の大パトロンとしての廣岡久右衛門」高槻泰郎編『豪商の金融史』慶應義塾大学出版会、2022年7月、146-151頁。
- ・(コラム)「伝える、書く、残す—江戸時代の書物の世界から—」『寸胴』68、2023年3月、1-3頁。

塚田穂高 共同研究員 宗教社会学、日本文化論

問芝志保 共同研究員 宗教社会学、日本近現代宗教史

[論文]

- ・「家墓と家墓批判の歴史社会学—カロートの普及をめぐる—」山田慎也・土居浩編『無縁社会の葬儀と墓—死者との過去・現在・未来』吉川弘文館、2022年7月、226-245頁。
- ・「戦後日本におけるカロート式家墓の普及とその多様化—霊園・石材事業者の資料をもとに」『民具マンスリー』55(4)、2022年7月、1-14頁。
- ・「明治期ジャパノロジストと祖先崇拜概念—研究前夜」『東北宗教学』18、2022年12月、1-26頁。
- ・「関東大震災と遺灰・納骨堂・墓」『東北宗教学』(特集号)、2023年3月、17-30頁。

[口頭発表]

- ・「自著解題」現代民俗学会第63回研究会「近代の先祖の話—問芝志保『先祖祭祀と墓制の近代—創られた国民的習俗』を読んで考える」、オンライン開催、2022年8月6日。
- ・「戦前の日本文化紹介書におけるReligionとAncestor Worship」日本宗教学会第81回学術大会、於愛知学院大学(オンライン開催)、2022年9月10日。
- ・「日本社会と葬送の変動—葬列から終活ブームまで」第45回浄土宗総合研究所公開シンポジウム「岐路に立つ、これからの「お葬式」—死者と共に生きてゆく」、於大本山増上寺光猷殿講堂、2023年2月13日。
- ・「著者リプライ」大正大学宗教学会2022年度秋期大会・合評会『近代仏教教団と戦争』・『先祖祭祀と墓制の近代』、於大正大学、2023年2月23日。
- ・(講演)「近現代東京と墓の変容—関東大震災からの100年を振り返る」日蓮宗東京都西部教化センター主催・東京都西部教師研修会、於常圓寺祖師堂、2023年2月28日。
- ・「先祖・墓・家族の変容とこれから—森岡清美の研究を手がかりに」庭野平和財団シンポジウム「家族と宗教」、オンライン開催、2023年3月27日。

[その他]

- ・(書評リプライ)「書評へのリプライ」『宗教と社会』第28号、2022年6月、85-86頁。

丹羽宣子 共同研究員 宗教社会学 ジェンダー論 社会調査論

[論文]

- ・「『日蓮宗前女性教師アンケート調査』企画の意図とその活用に向けて」『現代宗教研究』57号、2023年3月、122-137頁。

[口頭発表]

- ・「日蓮宗女性教師をめぐる課題—2002年度/2021年度調査の比較から」仏教とジェンダー研究会、於智山伝法院、2022年6月7日。
- ・(講演)「日蓮宗におけるジェンダーギャップの現状—『ジェンダー平等』がもたらす新しい教師の姿とは」日蓮宗中四国教区教化研究会議、於米子コンベンションセンターBIG SHIP、2022年6月20日。
- ・「仏教教団における『女性活躍』の批判的検討」浄土宗の平等思想とLGBTQ研究会、於浄土宗総研、2022年7月4日。
- ・「日蓮宗における女性教師像の変化と家族」庭野平和財団シンポジウム「家族と宗教」オンライン開催、2023年3月27日。

[その他]

- ・(コラム)「【宗教リテラシー向上委員会】〈もはや昭和ではない〉時代の宗教論」『キリスト新聞』2022年9月21日。
- ・「安倍晋三元首相の国葬をめぐる報道」『ラーク便り』96号、2022年11月、39-42頁。
- ・(コラム)「女性僧侶の誕生と葛藤1 〈尼僧〉と〈女性僧侶〉」『仏教タイムス』2023年2月2日。
- ・(コラム)「女性僧侶の誕生と葛藤2 全日本仏教尼僧法団の歩みと活動」『仏教タイムス』2023年2月9日。
- ・(コラム)「女性僧侶の誕生と葛藤3 社会の変化と〈女性僧侶〉の登場」『仏教タイムス』2023年2月16日。
- ・(コラム)「女性僧侶の誕生と葛藤4 過渡期の成長痛」『仏教タイムス』2023年2月23日。
- ・(コラム)「女性僧侶の誕生と葛藤5 黄金の3割と脱トークニズム」『仏教タイムス』2023年3月2日。
- ・(コラム)「女性僧侶の誕生と葛藤6 〈男社会〉の困難の中で」『仏教タイムス』2023年3月9日。
- ・(コラム)「女性僧侶の誕生と葛藤7 〈女性ならではの〉危険性と可能性」『仏教タイムス』2023年3月16日。
- ・(出演)「宗教メディアサミット 中外日報×仏教タイムス×文化時報×キリスト新聞」2023年3月17日。
- ・(コラム)「女性僧侶の誕生と葛藤8 データで見る女性教師像の変化」『仏教タイムス』2023年3月23日。
- ・(報告書)『日蓮宗全女性教師アンケート報告書(令和3年度版)』日蓮宗現代宗教研究所、2023年3月。

野口生也 共同研究員 宗教人類学、ペンテコスタリズム研究

原田雄斗 共同研究員 日本近代史、日本宗教史

ジャン＝ミシェル・ビュテル (BUTEL, Jean-Michel) 共同研究員 日本民俗学

チャールズ・フレイレ (FREIRE, Carl)

共同研究員 近代の日本史(特に社会史・思想史)

牧野元紀 共同研究員 ベトナム近代カトリック布教史、太平洋海域交流史、アーカイブズ学
[口頭発表]

- ・(講演)「明治期の東北地方におけるカトリック再布教の試み—プロトランド神父とルマレシャル神父の事例から」「知の大冒険—東洋文庫 名品の煌めき—」展記念講演会、東北歴史博物館、2022年5月29日。
- ・(発表)「昭和女子大学のアーキビスト養成教育—現状と展望—」公開シンポジウム「アーカイブズ専門職問題の新潮流(第27回 史料保存利用問題シンポジウム)」、オンライン開催、2022年6月25日。

[その他]

- ・(コラム)「フラヌール第2回『インドシナ書誌』『季刊永青文庫』117号、2022年5月、38頁。
- ・(学会参加記)「日本アーカイブズ学会2021年度第1回研究集会「アーキビスト教育の新展開—大阪大学・島根大学における認証アーキビスト養成の取り組み—」参加記」『アーカイブズ学研究』36号、2022年6月、50-55頁。
- ・(シンポジウム報告、野口朋隆氏と共著)「昭和女子大学大学院アーキビスト養成プログラムの取り組みについて」『日本歴史学協会年報』38号、2023年3月。

三ツ松誠 共同研究員 日本思想史

[単行本]

- ・(分担執筆)「江戸時代の脊振山」神崎市教育委員会市史編纂室編『神崎市史 第2巻 原始・古代、中世、近世 編』神崎市、2022年4月、815-824頁。
- ・(分担執筆)「寅吉をめぐる冒険」山下久夫・斎藤英喜編『平田篤胤 狂信から共振へ』法蔵館、2023年2月、205-226頁。

[論文]

- ・「国学政治思想史研究の現在」『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報』第15号、2022年9月、24-32頁。

[口頭発表]

- ・「和歌と真情—ポスト宣長期の国学者を事例に—」第38回日本ドイツ学会大会、オンライン開催、2022年6月25日。
- ・(講演)「漢字より古い文字?—神代文字論争と佐賀—」佐賀大学公開講座佐賀の歴史と文化、於佐賀大学本庄キャンパス、2022年7月3日。
- ・(講演)「『葉隠』の読まれ方あれこれ」歴史発見講座、於みやき町コミュニティーセンター、2022年8月19日。
- ・(講演)「大隈重信の学生時代—そのとき佐賀の教育事情—」佐賀大学・佐賀大学校友会第11回ホームカミングデー、於佐賀大学本庄キャンパス、2022年11月5日。
- ・「柴田礼一の実任教管長就任と教派神道界」日本思想史学会2022年度大会、於同志社大学今出川校地新町キャンパス、2022年11月6日。
- ・(講演)「小城の元武、水戸の光圀」令和4年度佐賀大学・小城市交流事業特別展「佐賀藩と小城藩—本家と分家の複雑な関係—」記念講演会、於小城市立歴史資料館、2022年12月10日。
- ・(講演)「歌人中島広足、佐賀まで花見に—『佐嘉日記』の旅—」私が教えたい佐賀の歴史と文化100分集中講義、於佐賀市立図書館、2023年1月28日。
- ・「コメント」2022年度第7回日本文化研究所研究会、オンライン開催、2023年2月21日。

[その他]

- ・(書評)三ツ松誠「書評と紹介 天野真志著『幕末の学問・思想と政治運動 気吹舎の学事と周旋』」『日本歴史』第887号、2022年4月、98-100頁。
- ・(書評)三ツ松誠「大沼宜規著『考証の世紀』——十九世紀日本の国学考証派」『日本思想史学』第54号、2022年9月、175-179頁。

- ・(書評) 三ツ松誠「復古神道と日本書紀—『日本書紀一三〇〇年史を問う』を読んで—」『新しい歴史学のために』第301号、2022年12月、32-40頁。

宮澤安紀 共同研究員 宗教社会学

[口頭発表]

- ・「手元供養と遺骨のマテリアリティ」 「家内における死者祭祀・祭具の現在とその歴史的検討：変容するモノ・家族・社会」 2022年度第4回研究会、於国立歴史民俗博物館、2023年2月19日。
- ・「現代日本における遺骨への態度をめぐって—遺骨の両義性と手元供養品」、2022年度第9回日本文化研究所研究会、オンライン開催、2023年3月28日。

[その他]

- ・(受賞記念文)「「自然に優しい葬送」とは？——自然葬法をめぐる問い」『国際宗教研究所ニュースレター』第96号、(公財)国際宗教研究所、2022年6月、10-11頁。
- ・(報告書)「日本におけるオンラインメモリアルサイトの可能性について」『一般社団法人冠婚葬祭文化振興財団 冠婚葬祭総合研究所論文集』令和4年度、2023年5月、88-95頁。

村上晶 共同研究員 宗教社会学

[単行本]

- ・(分担執筆)「軀であり翼であり」『わたしの学術書—博士論文書籍化をめぐって』春風社、2022年4月、199-206頁。

[論文]

- ・「「かもしれない」領域を照らす民間信仰研究へ—Folk, Popular, VernacularそしてLived という視座をめぐって—」『駒澤大学佛教学部論集』2022年10月、244-268頁。

[口頭発表]

- ・“What Is “Lived Religion” Made of? Rethinking “Religion” in Contemporary Shamanism” 日本宗教学会 第81回学術大会 (パネルEsotericism, Occultism, and Spiritual Therapies during the Long Twentieth Century: Theoretical Implications)、於愛知学院大学 (オンライン開催)、2022年9月11日。

矢崎早枝子 共同研究員 宗教学

[論文]

- ・“The Islamic Manuscript Collection of A.S. Yahuda in Princeton University Library: A History of Acquisition,” Ali M. Ansari ed., *Fruit of Knowledge, Wheel of Learning: Essays in Honour of Carole Hillenbrand*, Gingko Library, 2022.4., pp.176-189.
- ・“Classes of Beings in Sufism,” Christian Lange and Alexander Knysh eds., *Handbook of Sufi Studies Vol. 2: Sufi Cosmology*, Brill, 2022.12. (E-Book), 2023.1. (Hardback), pp.68-88.

[口頭発表]

- ・“Power dressing in politics: The clothing of Kami (Shinto deities) from textbooks to manga in Japan,” Religion, Challenge and Change seminar series “Decolonising knowledge,” University of Glasgow (Online), 2022.4.20.
- ・“The Islamic manuscript collection of A.S. Yahuda in Princeton University Library: A history of acquisition,” British Association for Islamic Studies Conference, University of Edinburgh, 2022.6.7.
- ・(講演) “Disciplining or learning the self: A comparative analysis of self-transformation and ethical conduct in Sufism and Zen,” Theology and Religious Studies, University of Nottingham, 2022.10.12.
- ・(講演) “Kimono - sense and sustainability,” Theology and Religious Studies Community, University

of Glasgow, 2023.3.15.

[その他]

- ・(セミナー共催) “Religion, Challenge and Change Seminar Series,” University of Glasgow, 2022.4.20., 5.17., 6.29, 2023.1.25., 3.9.
- ・(イベント共催) “Experiencing Japanese tradition through food and the spirit of tea,” University of Glasgow, 2022.10.6.
- ・(ワークショップ共催) “Food consciousness and Japanese culinary practice workshop,” University of Glasgow, 2023.2.24.

ラーション・エーニルス (LARSSON, Ernils) 共同研究員 宗教学

[口頭発表]

- ・“Arguing the Naha Confucius Temple case: Confucianism as historical heritage or foreign encroachment in Okinawa,” European Association for the Study of Religion (EASR) in Vilnius, Lithuania, 2022.9.4-8.

出版物紹介

藤井修平『科学で宗教が解明できるか—進化生物学・認知科学に基づく宗教理論の誕生—』

(勁草書房、2023年1月)

内容紹介

本書は、進化生物学や認知科学の知見を用いた宗教理論である「科学的宗教理論」が21世紀に登場したことが、宗教研究の分野にいかなる展開をもたらすかという点について、その方法論、成立経緯、批判および思想的役割の分析を通して解明を試みたものである。

本書では科学的宗教理論に対し、既存の宗教研究との関連(第1章)、進化生物学と認知科学における背景と理論の展開(第2・3章)、それに対する方法論的議論と批判(第4章)、関連する宗教思想(第5・6章)という複数の視点からアプローチし、科学的宗教理論はどのような分野の知見を参照しているか、それは宗教をどのように捉えているか、既存の研究とはいかなる点が異なるか、その登場にはどんな社会的背景があるかといった問いに答えている。

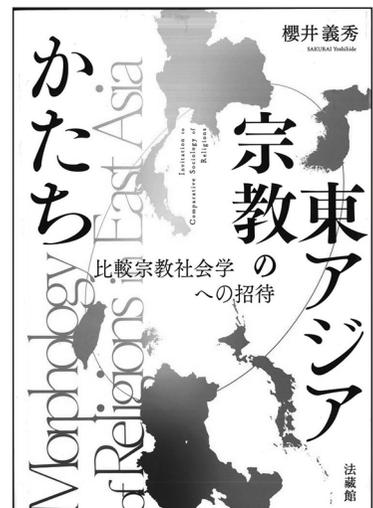


櫻井義秀『東アジア宗教のかたち—比較宗教社会学への招待—』

(法藏館、2022年6月)

内容紹介

本書は、宗教に「かたち」を見いだし、近代化という共通の経験やそのプロセスの違いによる地域ごとの差異に着目して比較することで、より広い視点から東アジアの宗教文化を論じたものである。序章において、比較宗教社会学とは何か、また、その視点と手法が述べられ、本書の意図・立場が明らかにされる。2章以降では、タイ、中国、台湾、チベット、香港、韓国、日本における仏教をはじめとする伝統宗教や新宗教、民俗宗教が、政治体制との関係や近年の動向にも触れながら俯瞰される。長年にわたる現地調査での経験が惜しみなく盛り込まれ、著者の視点からみる宗教文化論が平易な語り口で展開される点が本書の特徴であろう。巻末には、付録として「アジアの宗教を読む20冊」が収録されている。



港千尋・平藤喜久子編『〈聖なるもの〉を撮る—宗教学者と写真家による共創と対話—』

(山川出版社、2023年8月)

内容紹介

本書は、祭り・祈り・聖地・教祖などの〈聖なるもの〉に取り組み、撮影してきた宗教学者と写真家総勢14名が、それぞれの立場からどのように〈聖なるもの〉と向き合っているかを論じた画期的な試みである。写真家が写真を撮ることと研究者が文章を書くことには重なりあうものがあると編者は述べる。

第一部・第二部では、様々な聖なる場所・人物への向き合い方が語られ、第三部では、柳田國男や岡本太郎など写真と積極的に関わった先人たちのまなざしを取り上げられる。スマホが普及し、誰もが簡単に撮影・発信できる現在、〈聖なるもの〉を撮り、それを見ること・見せることはどのような意味をもつのか。研究者が持ち寄った「失敗写真」を題材に写真家の技術を学ぶ対話を収録されている。



飯倉義之監修、いとうみちろう絵『はじめてのオニずかん』

(スタジオタッククリエイティブ、2022年9月)

内容紹介

本書は古今東西のオニを取り上げた、子供向けのずかんえほんである。子供でも読みやすい平易な文章に、迫力あるフルカラーのイラストが多数入っており眺めるだけでも楽しい。しかしただ楽しいだけに終わらず、説明を読んでもみるとその専門的な内容に驚く。まず冒頭の「オニって何だろう?」ではオニが歴史的にかなり広い意味で多彩な描かれ方をしていたこと、病気や自然災害など”おそろしいもの”をオニと呼んでいたことを説明する。以下、「大江山のオニ」「仏教・神界のオニ」「地獄のオニ」「日本各地に伝わるオニ」「物語のオニ」「外国のオニ」と、有名な説話や祭りに登場するものなど様々な出典をもつオニを多数取り上げる。コラムでは陰陽五行説など背景となる思想の解説まで盛り込む力の入れようだ。本書を読んだ子供たちが数十年後、妖怪の研究者となることもあるのかもしれない。



國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報 第 16 号

令和 5 年 9 月 30 日 発行

発 行 者 平藤喜久子

編集担当 吉永博影

川嶋麗華

印 刷 所 株式会社 丸井工文社

発 行 所 國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所

東京都渋谷区東 4 丁目 10 番 28 号

郵便番号 150-8440

電話 03-5466-0104 (研究開発推進機構事務課)

FAX 03-5466-9237

